

「精神障害者」と呼ばれる人々を支援する「精神保健福祉士」(略称PSW、国家資格)。
そのつらく、悲しく、難しく——そして喜びに満ちた仕事内容を記した
“類書のない一般向け”精神科ソーシャルワーカーの実録本です。落涙必至の感動的な本。

精神保健福祉の実践

北海道十勝・帯広での五〇年

NPO法人十勝障害者サポートネット理事長
小栗静雄著
「へぐり語録」編集委員会編

A5判・並製 / 240頁(予定) / 7月上旬刊
定価: 本体 **2000円** + 税(税込2200円)
ISBN978-4-909281-34-0 C0036

精神病者を自宅監禁していた家がまだあった昭和の時代から、
北海道十勝地方(近年の精神保健福祉活動の先進地)で
精神障害者の支援活動に奔走してきた
ベテランPSWの〈へぐりさん〉が、
自問自答を繰り返しながらその半生を振り返った、
ひとたび読み出すと止められなくなる衝撃と感動に満ちた自叙伝です。
PSW仲間による、福祉の現場ばかりでなく
どんな仕事にも役立つ〈へぐり語録〉も収録。



←PR・パブ情報
①7月上旬に朝日新聞(全国版)にサンクション広告を出します。
②7月中旬に北海道新聞に全5段広告を出します。

[目次より抜粋]

[第1部] 精神科ソーシャルワーカー五〇年……小栗静雄

第1章 新人ワーカーの苦悩と十勝の先進性

●入院者の日常に衝撃を受ける ●精神障害者処遇の黒い歴史を垣間見る ●暴力装置とも言われる強制的入院 ●屋根裏部屋の崩壊家族 ●前代未聞のリクリエーション——病棟でのストリップショー

第2章 越境するソーシャルワーカー

●「Y問題」から導き出された「札幌宣言」とは ●日本の精神医療はどうなってる ●ある悪しき精神病院のこと ●寝耳に水の病棟閉鎖、昼休みのピラ配り

第3章 社会の中のソーシャルワーカー

●ケアマネ連携の不自由 ●セルフプランはどうあるべきか ●ソーシャルワークの踏み絵——情報管理 ●精神障害に関わる新聞報道について ●インフォームド・コンセントとは何か——COMLから学ぶ

第4章 ソーシャルワークは終わらない

●私の家庭——貧困と粗暴な兄弟の中で ●留年と授業ボイコットの高校時代 ●「やどかりの里」の谷中輝雄さんとの思い出 ●「どうして逃げてばかりいるんだよ! アンタは!」

[第2部] 仲間が紡ぐ「へぐり語録」

……北海道十勝の保健師/坪井一身/大辻誠司/今井博康/黒木満寿美/栗野明子/三品育

小栗静雄(おぐり・しずお)

通称へぐりさん。1945年、北海道帯広市生まれ。日本福祉大学卒業。精神保健福祉士。NPO法人十勝障害者サポートネット理事長。1969年、帯広市の総合病院にただ一人の精神保健福祉士として入職。1989年から10年間、日本精神科ソーシャルワーカー協会の北海道支部長。2005年、NPO法人十勝障害者サポートネットを立ち上げる。現在、同法人の理事長をつとめながら介護サービス包括型グループホーム事業所の現場にも立っている。

「へぐり語録」編集委員会編集委員

今井博康(いまい・ひろやす)

1960年、広島県三次市生まれ。北翔大学教授。精神保健福祉士。

大辻誠司(おおつじ・せいじ)

1962年、北海道芦別市生まれ。砂川市立病院認知症疾患医療センター副センター長。精神保健福祉士。

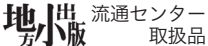
三品育(みしな・ひとし)

1963年、北海道旭川市生まれ。岩見沢市立総合病院に勤務。精神保健福祉士。社会福祉士。

* 本書は地方小扱いですので一部の書店を除き新刊配本はありません。必ず事前のご予約(ご注文)をお願いします。

ご注文は下記にご記入の上→寿郎社 FAX011-708-8566

注文票

 ●書店名 ●御担当者名	●発行 寿郎社	●発注日 月 日	●備考
	●注文数 冊	●著者名 小栗静雄 「へぐり語録」編集委員会編 ●書名 精神保健福祉の実践 北海道十勝・帯広での五〇年 ●定価: 本体 2000円 + 税 ●ISBN 978-4-909281-34-0 C0036	